

第13回神奈川県景気動向指数検討委員会開催結果について

- 1.日 時 平成28年6月15日(水) 14:00~16:30
- 2.場 所 かながわ県民センター12階 第1会議室
- 3.出席者 神奈川県景気動向指数検討委員会名簿のとおり
- 4.議 事 (1)神奈川県景気動向指数採用系列の改定について
(2)神奈川県景気基準日付の確定について

5.主な意見

(1)神奈川県景気動向指数採用系列の改定について

先行系列で今回除外する新設住宅着工床面積は、今は連動性に乏しくとも、経済的に重要な指標であると考えられるので、引き続き注視し、次回の改定の際にも検討の対象として欲しい。

大口電力使用量の除外は、震災の影響に加えて自由化の影響もあり、生産等の動きと関連性が低くなっているため、違和感はない。

消費者物価指数について、近年異常気象が頻発しているため、天候に大きく左右される生鮮食品を除く総合への変更は、妥当と考えられる。

(2)神奈川県景気基準日付の確定について

景気の山については、若干の違和感がある。過去の景気基準日付をみると神奈川県は国よりもやや遅れていたが、今回は先行している。東日本大震災の影響等で統計値自体が不安定ということもあるため、今回は従来 of ヒストリカルDIではなく、CIを中心とした判断とした方がよいのでは。

東日本大震災の影響で国が遅れたという考え方もできるのではないか。

従来 of 方法(ヒストリカルDI)を尊重して確定してもよいのでは。

国ではCI中心の公表形態になって8年が経過しているところ、景気基準日付設定時は、ヒストリカルDIで波及度等も確認しつつ、各指標もみながら研究会で議論していただいている。

6.検討結果

(1)神奈川県景気動向指数採用系列の改定について

神奈川県景気動向指数採用系列の改定について、事務局案のとおり改定することは妥当である。

(2)神奈川県景気基準日付の確定について

国の第15循環に対応する神奈川県景気基準日付の確定について、「平成24年1月」を景気の山とし、「平成24年12月」を景気の谷とすることは概ね妥当であると考えられる。

なお、今回は、これまでの県の景気の山谷の傾向と異なるとの見解もあったため、今後の指数の動向等を踏まえ、次回、景気動向指数検討委員会開催の際に再検討を行うこととする。

神奈川県景気動向指数検討委員会名簿

平成28年6月15日現在

(職名五十音順/敬称略)

委員氏名	職名
市野澤 国冠	神奈川県商工会議所連合会事務局長
佐藤 和男	神奈川県商工会連合会事務局長
梶田 昌幸(欠席)	経済産業省関東経済産業局総務企画部調査課長
安部 純一	財務省関東財務局横浜財務事務所財務課長
大平 純彦	静岡県立大学経営情報学部准教授
西崎 寿美	内閣府経済社会総合研究所景気統計部長
田口 健二	日本銀行横浜支店総務課長
北田 英治	(株)浜銀総合研究所調査部長

：委員長、 ：委員長代理

経済産業省関東経済産業局総務企画部調査課石田総括係長が代理出席

(事務局)

濱野 潔	統計センター所長
山口 英紀	統計センター次長
原 広江	統計センター企画分析課長
作田 直子	統計センター企画分析課副主幹
戸松 宏	統計センター企画分析課副主幹
橋本 亜衣	統計センター企画分析課主事
西條 千聡	統計センター企画分析課臨時主事